

「青少年防衛講座」に学生が参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）静岡募集案内所は、8月7日（月）から9日（水）までの3日間、航空自衛隊静浜基地（焼津市）が実施した「青少年防衛講座」に参加者を引率した。

これは、同基地の第1飛行教育団が県内の児童や中学生に航空自衛隊に対する理解を深めてもらうと開催したもので、今回が初めての試みとなる。静岡地本からは、小学生13人、中学生12人、高校生27人が参加した。

はじめに、操縦訓練などでパイロットを養成するために学生が初めて乗るT-7初等練習機の操縦席に乗り込み記念撮影をした後、資料館において同基地の渉外室長・志垣3等空佐がクイズ形式で防衛講座を行った。長年さまざまな航空機のパイロットとして活躍してきた経験をふまえ、戦闘機の種類などに関するクイズを出題すると、参加者は勢いよく手を上げて元気に答えていた。

午後からは、隊員が日々飛行教育支援のために勤務している管制塔や気象隊などを見学し、また、消防小隊が使用する防火衣の試着や、パイロットを目指す航空学生が日々の訓練で使用している「T-7初等練習機シミュレータ」の模擬体験飛行も行った。

参加者は「航空自衛隊はパイロットのイメージが強いが、それを支える隊員の方が多く、さまざまな場面で活躍できるやり甲斐のある職場だということが分かった」などの感想を話していた。

静岡地本は、今後もこのような実体験を通して五感で感じることが出来る機会を積極的に活用し、自衛隊という仕事の魅力をより深く知ってもらうとともに、職業選択肢の第一希望となるよう努めていく。



「浜松基地見学」に学生を引率

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月8日（火）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）において実施された基地見学に参加者を引率した。

これは、高校生などに対し基地見学を通じて自衛隊に対する理解や認識を更に深めてもらい、志願者獲得に繋げることが目的。静岡、山梨、長野県から多くの参加者が集まった。

午前中は、一般公開されている航空自衛隊浜松広報館「エアパーク」を見学した。その後基地内に移動し、隊員が普段食べている食事を体験喫食した後、基地資料館での概況説明や航空機の見学などが行われた。

航空機見学では、第1航空団所属のT-4中等練習機に関する説明を教官や操縦学生から直接聞き、またコクピットの試乗も体験した。

参加者は、航空機の性能や普段実施している飛行訓練の内容を聞くなど操縦学生に積極的に質問する姿が見られた。

参加者からは「コクピットの試乗や隊員の生の声を聞くことができ、航空自衛隊に更に興味が湧いた」という感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も部隊と連携して基地見学などの機会を活用した積極的な募集広報に努め、将来を担う優秀な若者の獲得に全力を尽くす。

